

教育の不易と流行

今から 25 年ほど前、いわゆる「ゆとり教育」が話題になっていたのと同じ頃、中央教育審議会の答申で教育における「不易と流行」ということが言われました。「不易」とは、時代を超えて変わらない価値のあるもの（＝易^かわらず）、「流行」は、その名の通り時代の変化とともに変えていく必要があるものとされています。そして、それらは別々にあるのではなく、いつまでも変わらないものの中に新しい変化を取り入れることを指します。

現在の情勢に当てはめてみると、「流行」の先端は教育の ICT 化でしょうか。現在の 2 年生から入学と同時に一人一台端末の活用が始まっています。端末を使うことで、自分以外の人がどのような考えを持っているのかを同時に共有することや、生徒個々の状況に合わせて苦手な分野を集中的に取り組むことが可能になりました。

新たな変化を積極的に取り込む一方で、「学ぶ」こと自体は、これまで以上に変化が激しく大きな時代になることが予想されるからこそ、考える基盤となる学力をしっかりと身に付けさせること、つまり「不易」が必要となります。

学校の役割自体にも同じことが言えます。地域の持続を担う人の育成という「不易」は変わりません。しかし、時代の変化に合わせ、それぞれの地域が持つ課題を自分事として考え、よりよくしていこうとする意欲や行動力を伴う人の育成が「流行」と言えるでしょう。

今年度は、浜頓別中 17 名、中頓別中 7 名、拓心中 8 名の計 32 名の新入生を迎え、全校生徒 91 名でスタートしました。浜頓別町からのご支援や「浜高を支援する会」を初めとする地域の皆様のご期待に対し、小規模校だからこそできる丁寧な教育を行おうと、職員一同、決意を新たにしましたところ です。

本校では、教育の不易と流行をとらえ、自己実現を図りながらよいより社会を担う人を育てることを使命とし、地域から信頼される学校づくりを目指して教育に取り組んでいきますので、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。なお、本校の様子はホームページや生徒会のインスタグラムでも発信していますので、是非ご覧ください。

生徒会 Instagram

